四国八十八ヵ所めぐり「歩き遍路の旅」２

日本先史古代研究会　会員　樋口俊介

発心の道場（阿波の国）　その２　　「1番（霊山寺）～23番（薬王寺）」合計23ヶ寺（徳島県）

発心（ほっしん）とは、　四国霊場巡拝を志すこと。

はるか彼方に向かって1200Km あまりの辺路（へち）

の旅へ、皆様をご案内いたします。

当日に歩くお寺に関する由来とか伝説等の内容を分かる範囲で説明をします。
これからが修行のスタートです。必ず最後まで歩き通します。

第２回目＝平成20年５月12日（月）春の田園地帯を歩く！

歩き（ウォーキング）遍路　　札所４ヵ所（6番～9番札所）約　13Km

遍路で唱える、お経は、密教のお勤めが基本。一般に本堂と大師堂では、遍路用の経本にしたがって下記の順番で唱え、もし暗記していても、経本を見ながら唱えるそうです。

①合掌礼拝・・・・・・・・（合掌礼拝といい、胸の前で合掌、三礼しながら「うやうやしくみ仏をたてまつる」と唱える。
②開経偈、懺悔文、三帰、三竟、十善戒　（開経偈、懺悔文、三帰、三竟、十善戒を各一回　唱える）
③発菩提心真言・・・・・「おうぼんじったぼだはやみ」　を　三回唱える
④三摩耶戒真言・・・・・「おんさんまやさとばん」　を　三回唱える
⑤般若心経・・・・・・・般若心経を一回唱える
⑥御本尊真言・・・・・・各札所のご本尊のご本尊真言を三返し唱える。これは本堂のみで行なう。太師堂では省略
⑦光明真吾・・・・・・・光明真吾を三回唱える。これは、真言宗の一番大事な仏である大日如来の真言。
⑧御宝号・・・・・・・・弘法大師の名前である御宝号「南無大師遍照金剛」を三回唱える）
⑨回向文・・・・・・・・回向文を一回唱える。これは仏道を成就することを願うもの。
⑩合掌一礼・・・・・・・「ありがとうございます」と述べて合掌一礼する。）

６番札所＝（温泉山）安楽寺　　所在地＝徳島県板野郡上板野町引野寺の西北８

電話＝088-694-2046

宗派＝高野山真言宗
開基＝弘法大師
本尊＝薬師如来

○開基当時は、現在の位置からおよそ１．５Km 西の安楽寺谷であったといわれている。兵火で焼失したのだが、万治年間（１５７３～１５９２）に現在の位置に移り再興した。谷から湧き出る鉄錆色の熱湯が万病に効くと評判だったため、遠くから湯治におとずれる人も多かったという。

薬師如来について　　人間の病苦を癒し心の苦悩、厄を取り除くなど１２の誓願をあらわす如来で、四国霊場にはいちばん多く祀られている。

筆者紀行

５番から歩いて約５Kmを１時間３０分（途中１０分位休憩する）で到着した。前回の歩き遍路では一日中雨が降り続きましたが、今日は見事な快晴でバス２台（８０人）で、林原駐車場６時４０分

出発し前回歩き終わった５番（地蔵寺）に９時３０分に着き、歩く準備をすませ先達さんを先頭に７番札所へ途中で４、５歳の子供達３人から手を振ってもらい或いはお年寄りのご夫婦から頑張ってと声を掛けられるなど四国の人々から暖かい温情を感じながら気持ちよく元気で歩けました。周囲の方々に感謝！無事にお参り済ませ７番へ

7番札所＝（光明山）十楽寺　所在地＝徳島県阿波市土成町高尾法教田 58

電話＝088-695-2150

宗派＝高野山真言宗
開基＝弘法大師
本尊＝阿弥陀如来

○ 大師の開祖で「人の出会う生老病死の四苦や八苦を逃れ、十の快楽が得られ宗るように」という願いを込めてこの寺名がつけられた。眼病や失明に霊験があるという地蔵尊ある。参拝を終えたあとに視力が蘇ったとの例があるそうです。

阿弥陀如来について　寿命無量、光明無限の仏。絶えることのない生命力と輝きをもつ。「南無阿弥陀仏」の念仏を唱える者をすべて極楽へ導く。

筆者紀行

６番から歩いて１．２Ｋｍを１５分くらいで到着する。７番札所「十楽寺」の本堂に安置されている本尊の阿弥陀如来は、創建時より伝わるものだそうだが、残念ながら秘仏のために見ることが出来なかった。

遍路道には、ところどころにお遍路さんが休めるような“お接待所”があります。お菓子や飲み物が頂ける所も随所にあり、なお　お接待を受けたら、納札をお渡しするのがお約束です。お接待は、基本的には受けること。それは「お遍路に行けない私の分までお参り下さい」という代参の意味でもあったりするからです。

とにかく大勢（８０人）ですから信号、車、曲がり道等では、スタッフ、各人は常に気を配り一緒の行動が大変でした。しかし歩くという行為は、人間に具わっている根っこの力を呼び覚ましてくれるようです。　無事にお参り済ませ気持ち新たに！８番へ

8番札所＝（普明山）熊谷寺　所在地＝徳島県阿波市土成町土成前田 185

電話＝088-695-2065

宗派＝高野山真言宗
開基＝弘法大師
本尊＝千手観音菩薩

○ 田畑が広がる小高い山の中腹に豪壮な仁王門が立つ。その迫力に圧倒され、思わず立ち止まり見上げてしまう。熊野権現があらわれ、観音像を大師に授け去った。そこで大師は一堂を建立。みずから等身大の千手観音を刻み、その頭髪の中へ１２０粒の仏舎利、胎内に授かった金像を納め、本尊としてまつったとされる。太師堂の大師像は第１２番焼山寺に次いで古く、永享３年（1431）年に彫られたものという。

千手観音菩薩について　千手千眼観自在菩薩というのが正式な名前で、それぞれの手に眼をもつ。さまざまな持ち物を手にして世界の衆生を救済する。

筆者紀行

７番から歩いて４Ｋｍを１時間５分（途中５分休憩）で着く。歩いていると、道沿いにきれいな花がたくさん植えられていて和む。都会よりも花の色が鮮やかな気がした。ずんずん山道を歩いていくと、山の斜面に、二層の山門が見えて来た。熊谷寺の山門は和様と唐様（禅宗様）の折衷様式。高さ１３．２ｍ。この山門は四国八十八ヶ所霊場の中で、最大の大きさで、県の重要文化財にも指定されている。なんて素晴らしいのだろう。また、本堂へ向かう途中に、ひときわ色鮮やかに目を引く多宝塔の横の参道を登って行くとある中門には、派手な色彩の毘沙門天様と持国天様がいらして、それにも思わず見とれてしまう。

しかし後に続く人が多くてゆっくりと見とれている事が出来なく残念！！せっかく登った山だったが、お参りを済ませすぐに下り。急ぎ足で次の９番札所をめざすが、少し足が痛く左側の足裏の２ヶ所に豆が出来たようですが、その事は自分の中に収め皆と一緒に頑張って歩く。ただ歩く。ある時は、ひたすら無心に。またあるときは、四季の自然を五官で感じながら。歩くということは本当に、いろんな事を教えてくれます。

9番札所＝（正覚山）法輪寺　所在地＝徳島県阿波土成田中 198-2

電話＝088-695-2080

宗派＝高野山真言宗
開基＝弘法大師
本尊＝涅槃釈迦如来

○　昔、松葉杖をついて参拝に来た人が、参道で足が軽くなって病気完治したという逸話がある。そのため、山門には大きな草鞋が奉納されている。現在では健脚祈願として、本堂にたくさんの草鞋が奉納されている。釈迦の入滅を表す涅槃像を本尊とするのは、四国八十八ヶ所でもこの法輪寺だけである。

涅槃釈迦如来について　仏教の開祖釈迦牟尼が入滅する姿を表す。涅槃（入滅）とは、あらゆる煩悩や苦しみが消滅した境地をいう。

筆者紀行

８番から歩いて２．７Ｋｍを４５分で着き、大勢のためいろいろとありスムースに行かないが何とかお参りを済ませる。ここ法輪寺は四国八十八ヶ所霊場で唯一、涅槃像が本尊の寺。また、本堂にはお遍路さんが無事に歩ききれるよう、健脚祈願のわらじが多数奉納されていたので、私もお祈りをしました。

次の１０番札所までは約一時間以上も坂道を歩かなければとの思いを取り除き、お祈りもしたことだしと、気を引き締めて前に進むのみ。そして周囲の環境、自然の中での空気の美味しさを感じながら、気持ちを新たに目的地へ着くためには目の前の一歩の歩みを進める事だけが、唯一の方法です。そして辿りつく一日のゴール。お遍路の旅はそんな小さな達成感の積み重ねでした。当日の札所４ヶ所（１３Ｋｍ）の歩き遍路は１６時０５分に終わりバスに乗り岡山へ林原駐車場に１９時２０分頃に到着し、あと我が家へ！！

第 3 回目＝平成20年6月9日（月）潜水橋を渡り吉野川対岸へ

歩き（ウォーキング）遍路　　札所２ヵ所（10 番～11 番札所）　約１４Km

10番札所＝（得度山）切幡寺　所在地＝徳島県阿波市切幡観音 129

電話＝0883-36-3010

本尊＝千手観音菩薩
開基＝弘法大師
本尊＝千手観音菩薩

○　大塔は国の重要文化財に指定されている。元和４年、徳川秀忠が大阪の住吉神宮寺に寄進したものを、明治維新の廃仏棄釈の際、廃寺により西塔を天祐上人がここに移築した。移築には明治６年から１５年の９年の歳月かかる。

千手観音菩薩について　千手千眼観自在菩薩というのが正式な名前で、それぞれの手に眼をもつ。さまざまな持ち物を手にして世界の衆生を救済する。前記に説明の通りです。

筆者紀行

９番から歩いて５Ｋｍを１時間３０分（途中に休憩１０分）で着く。岡山林原駐車場を６時４０分に出発して、前回歩き終わった９番（法輪寺）に９時２０分に着き各自で準備を済ませて、９時３０分から歩き出し１０番（切幡寺）に１１時ごろに着きお参りを済ませ次へ、途中の八幡で昼食をする

がその間の約３０分くらい激しい雨が降る。しかし歩き始める頃は雨は止む。元気をだして歩き出すも坂道あり階段が多くありです。３３３段の石段を上る山の中腹の寺、境内には立ち姿の美しい観音像がある。秘仏の本尊は、機織りの娘が即身成仏し変身したという千手観音である。女人成仏の寺として善女の信仰を集めている。階段は上るときよりは下りの方が疲れるみたいです。１１番札所へ行く途中には、お遍路さんが通ると「絶対に感動する！」といわれ、川の水量が増えると橋が潜る「潜水橋」を通るというので、楽しみだ！

11番札所＝（金剛山）藤井寺

所在地＝徳島県吉野川鴨島町飯尾 1525

電話＝0883-24-2384

宗派＝臨済宗妙心寺派
開基＝弘法大師
本尊＝薬師如来

○境内に入ると、寺号の由来となった立派な藤棚がある。これは弘法大師が護摩壇を築いて修行を積み、境内にお手植えされたという「五色の藤」。寺の裏山にはミニ四国八十八ヶ所がある。４０分ほどで巡礼できる。本尊の薬師如来は、創建以来２度の火災を被りながらも難を逃れた。このため、厄除けに霊験があるとして、ひろく信仰されている。４月下旬になると見事な藤棚が見ごろになる。

薬師如来について　人間の病苦を癒し心の苦悩、厄を取り除くなど１２の誓願をあらわす如来で、四国霊場にはいちばん多く祀られている。

筆者紀行

１０番から歩いて１０Ｋｍを２時間４５分（途中に２回で１５分休憩）で着く、遍路道を歩く、田んぼのあぜ道、川の土手、車道、住宅地の狭い道路等を歩くが、やはり一番は遍路道です。足に負担が少ないし周囲の環境に恵まれている。最高で歩いていて疲れはなく気分が爽快になります。しばらく行くと細い橋が見えた。これがお遍路さんが渡るときに感動するとのうわさの「潜水橋」のようだ。川の水量が増えると橋が潜るらしいが、今は水量が少ないので、どちらかというと橋というよりも、細い道路のようだった。　てくてくと橋を渡っていると、細い道だというのに車が物凄い速さで通り過ぎて行く。人が歩いていてもスピードを落とす気配はないよう・・・・。道幅が狭いので避けようがなく、大変に怖かったです。１１番（藤井寺）には１５時３０分頃に到着し、お参りを済ませ。本日の歩き遍路の予定（１４Km）の残りを歩き１６時２０分に終わりバスで岡山へ１９時１０分に着く。あと我が家へ

吉野川の潜水橋

第４回目＝平成20年7月7日(月)山越え「遍路ころがしの道」へ

歩き（ウォーキング）遍路　　札所１ヵ所（12番札所）　１３Km

12番札所＝(摩虚山）焼山寺

所在地＝徳島県名西郡神山町下分地中318

電話＝088-677-0112

宗派＝高野山真言宗
開祖＝役行者小角
本尊＝虚空蔵菩薩

○　山門をくぐると、徳島県天然記念物に指定されている樹周５ｍを超える杉の巨木がある。奥の院は、境内から歩いて約１Ｋｍの山頂にあり、その山中にも、樹齢約３００年とみられる杉の巨木が群生している。標高７００ｍに建つ深山の寺。修験者の聖地でもあった。

空海が訪れたとき、妖火を吐く大蛇が現れ行く手をはばんだ。そこで空海は法力で大蛇を岩戸に封じ込めたという。

◎虚空蔵菩薩について　大地と慈悲の地蔵菩薩とならんで信仰があつい。福と知を無限に持ち、空と智慧を象徴する菩薩として信仰される。

筆者紀行

当日の参加者は９２名（スタッフ等を含む）バス２台で林原駐車場を６時４０分に出発し、途中に休憩を２回取り、前回歩き終わった１１番（藤井寺）に１０時０５分に到着する。各自に準備を済ませ１０時２０分に先達さんを先頭に歩きだすが、大勢の人で大変です。標高９３８ｍ、山の８合目にある１２番札所（焼山寺）までの約１３Ｋｍの山道は、健脚でも５時間はかかると言われている。上りあり谷にありの連続の道、遍路道で一番の難所だといわれている。高低差６００メートル、約１３キロのアップダウンの激しい山道です。歩き遍路に初めて訪れる最大の難所。ころげ落ちてしまうような道ということから「遍路ころがし」と呼ばれています。覚悟を決めていたが途中での、まるで岩肌を登っていくような場所もあって、まさに「修行の道」という感じ。上っては下り、下っては上る、とってもハードな道でした。当日は一山登り下り、二山登り下り、三山登ったことになる。１１番（藤井寺）から約１３Ｋｍを６時間３０分で着く、なお昼食（休憩等の１時間４０分）は別途です。歩き終えて大変に疲れましたが、気分は非常に爽やかでした。ひたすらに歩いていると、ふと、誰かに見守れているような感覚がした。あとでほかのお遍路さんにこのことを話したら、その人も同じように感じたと言われました。弘法大師様に見守られていたのかも知れない・・・・。まさに同行二人。

１８時４０分にバスに乗り、一路林原駐車場に２２時３０分到着、我が家には２３時２０分に帰宅。

焼山寺の巨木（天然記念物　一本杉）

歩き遍路の筆者（樋口俊介氏）現在も続いています。

次号は１３番札所の大栗山大日寺からですお楽しみに。